

イワミツバとは？

○ユーラシア原産のセリ科の植物で、戦前に食用として栽培されていたものが逸出し、野生化したといわれています。

最近では、カバープランツとして庭などに植えられたものが逸出した可能性もあります。葉や茎をつぶして揉むと食用に使用される在来のミツバと同じような匂いがします。

○葉だけの茎の高さは、地面から20～40cmほどですが、花がある茎の高さは50～80cmになります。

○雪解けと同時に芽を出し始め、6月上旬ごろから花芽を出して、7月いっぱいぐらいまで、茎のてっぺんに白い小さな花をたくさん着けた花冠を形成します。また、一本の茎から数個の冠状の花を葉の脇に着けることもあります。

○開花から1ヶ月ぐらいで種子が形成され、茶色く乾燥して立ち枯れます。その後も、花の着いていない葉だけの茎は積雪直前の時期まで枯れることなく、光合成をして根茎に栄養を蓄えます。

○地下では、根を横に伸ばし、伸ばした先で新たな葉を出す芽株を形成します。

これがネットワークのように拡がり、面状に群落を形成し、地面を覆い尽くします。

○アレロパシー（根から出す毒素）により、他の植物を駆逐する能力があるといわれています。



イワミツバの生活史①



融雪後すぐに
出芽する。
(フキノトウの周り
の濃い緑の葉は、
全てイワミツバ)

4月6日札幌で撮影



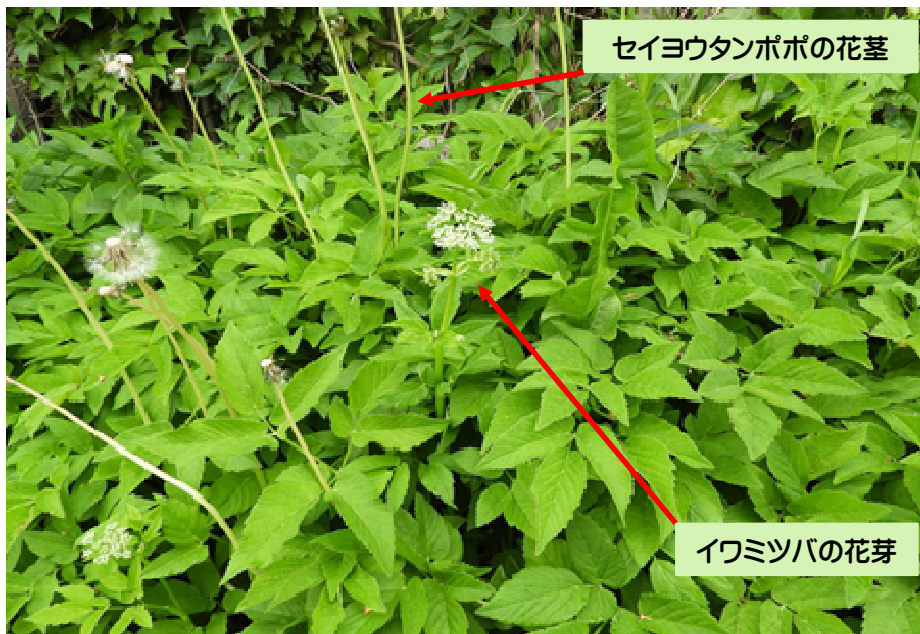
この場所では、5
月の成長期にイ
ネ科の植物やギ
シギシなどと競争
し、徐々に地面を
覆い始めた



次ページへ続く



イワミツバの生活史②



6月に花芽が出始める。
(セイヨウタンポポの花茎が、密生したイワミツバの間からかろうじて出る)



茎の頂上に白い小さな花を集めた花冠を形成し、茎の途中からも花芽を出し始める



次ページへ続く



イワミツバの生活史③



開花後1ヶ月くらいで種子が成熟し、たくさんの種子を着けた花茎は枯れ始める



花を着けなかった茎は、11月に入っても青々とし、光合成を行い根茎に栄養を蓄える

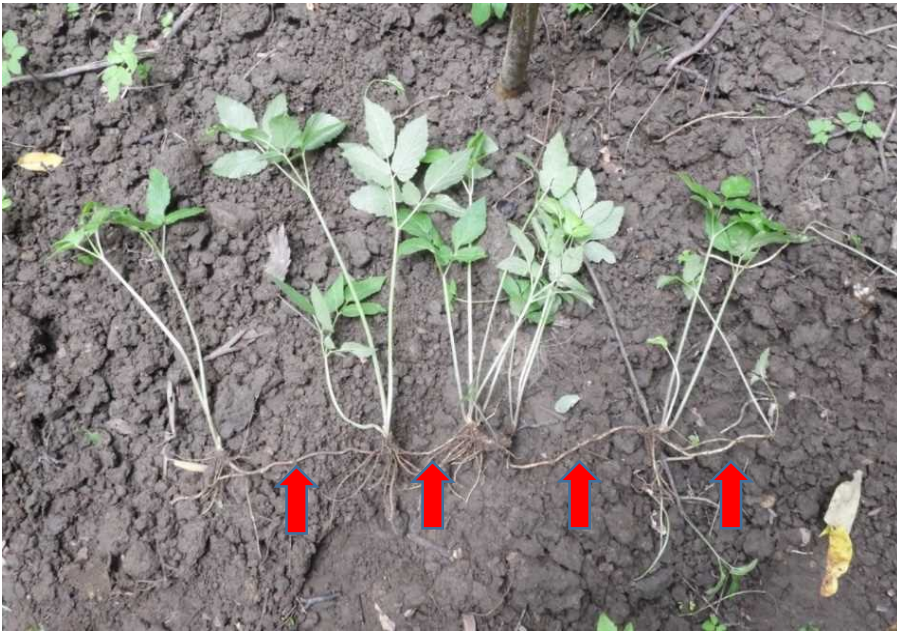
11月15日に採取した葉



次ページへ続く



イワミツバの生活史④



株どうしは白く太い根(矢印)でつながり、切れても単独で生き続け、根が残ればそこから再生する



秋になると、茎の根元部分が太くなりここに養分を蓄え、翌年ここから再び芽を出す。太くなった根茎の頂点に来年の出芽の準備ができています(矢印)

